

# 小学校1年生 スタートカリキュラム 国語科における学習環境の工夫例

(\_\_\_\_は学習環境の工夫による効果)

	学習環境の工夫	期待する児童の姿	考察
① 物的環境	a 活動を広げるための <b>作業スペース</b> の設置 (教室内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習中は、友だちと相談しながら必要なものを作製したり、本や図鑑を読んでまとめたりしている。</li> <li>・休み時間は、友だちと集まって工作をしたり、話をしたりして過ごしている。</li> </ul>	児童にとって <u>安心できる場所</u> となる。作業スペースでの活動と学習のつながりをもたせる工夫が必要である。
	b 思考をすぐに形するための <b>文具類</b> の設置 ・画用紙 ・色画用紙 ・はさみ ・セロハンテープ ・ボンド ・カラーマジック等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な発想で工作を楽しんだり、学習した内容をまとめたり、必要なものを作製するときに使っている。</li> <li>・「こんなものが欲しい」、「お面だけじゃなくて衣装も作ってみたい」といった発言をする児童が出てくる。</li> </ul>	何かをしたいと思ったときに、すぐに使うことのできる文具類が近くにあると、児童の <u>思考の継続</u> につながる。また児童の意欲を生み出すきっかけにもなる。 
	c すぐに手に取り、調べたり確認したりするための <b>本や図鑑</b> の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や図鑑を参考に発表会の準備をしている。</li> <li>・友だちのお別れ会のために、図鑑を見てクイズを作っている。</li> <li>・「もっと他の本も探したい」と、図書室に行って本を探している。</li> </ul> 	絵本や図鑑を参考に、学習内容から活動を広げて取り組むための材料となる。児童の意欲の向上や学習への動機付けにも効果的である。 
	d 単元の流れを見通すことで、思考の継続につながったり、文章構成に気付いたりするための <b>教材文</b> の掲示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時での学習と比較したり、同じ文章や言葉を探したりしている。</li> <li>・休み時間に掲示物を見ながら絵を描いたり、説明する文章を加えて発表の準備をしたりしている。</li> </ul>	学習中はもちろん、休み時間にも児童の目に入るため、児童の <u>思考の継続</u> に効果的である。前時と本時での、教材文の比較にも、教科書をめくるより見やすい。
	e 思考を深めるための <b>挿絵の拡大コピー</b> の掲示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちを読み取る際に、挿絵の登場人物の表情から考えている。</li> <li>・挿絵を見て、音読劇の発表に何が必要かを考えている。</li> <li>・登場人物が出てくる順番を、挿絵を見て確認している。</li> </ul> 	この時期の児童にとって、文章からの読み取りだけでは、登場人物の気持ちや場面の様子を想像することは難しい。教科書の挿絵は、それらを考えるヒントとなるものが細かく表現されており、児童の <u>想像を広げ、学習を深めるもの</u> となる。

① 物的環境	<p>f 思考を表現するためのワークシートの使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像した登場人物の気持ちを、自分なりの言葉で書いている。</li> <li>登場人物になりきった表現で書き、それを紹介し合っている。</li> <li>「もっと書きたい」という児童が出てくる。</li> </ul>	<p>登場人物の気持ちを自分の言葉にし、その気持ちの変化を捉えるときに効果的である。児童自ら「書きたい」という意欲も生まれ、児童の「主体的な学びの姿」につながる。</p>
	<p>g 学習の見通しをもつための学習計画の掲示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を意識した授業を展開すると、児童自ら次の学習の展開を予想し、自分自身の課題として捉えようとしている。</li> </ul>	<p>児童自ら学習の見通しをもつことで、課題を自分のものとして捉えられる。</p>
② 人的環境	<p>h 思考を深めるための目的をもたせた動作化の導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の気持ちや場面の様子を想像する際、実際に動いてみることで、よりイメージを深めることができている。</li> <li>教科書の文章だけでは想像することができなかったことにも気が付く児童が出てくる。</li> </ul>	<p>意欲的に活動する児童が多く、主体的な学びの姿が多く見られた手立ての一つである。また、動作化を取り入れることで、文章の内容にも目を向けることができ、国語科の目標とのつながりにも効果的である。</p>
	<p>i 学習意欲の向上のための評価の言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認める</li> <li>褒める 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読劇のためのお面をどのように作ったのか、どこを工夫したのか等を、一つ一つ自分の言葉で説明している。</li> <li>グループで動物の秘密を見つけると、すぐに教師や友だちに報告し、喜びを共有しようとする。</li> </ul>	<p>自分の考えや活動を、認めてもらうことで安心する。また、次の活動への意欲につながる。</p>



② 人的環境

<p>j 学習の課題を児童の課題とするために、<b>学習のゴールイメージ</b>をもたせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この学習で何がしたい？</li> <li>やってみたいことは何？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「音読劇をしてみたい」「動物のひみつ発表会をしたい」という希望が生まれ、学習の課題とつなげることができている。</li> <li>学習のゴールを目指すためには、何を学習しなければならないかを考える児童も出てくる。</li> </ul>	<p><u>学習の課題が、児童の希望や疑問につながっているため、自然と児童の「主体的な学びの姿」が生まれやすくなる。</u></p>
<p>k 思考を深めるための<b>発問</b>の工夫（つなげる）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇ちゃんの意見、どう思う？</li> <li>どうしてそう思ったの？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちの考えを聞き、それに対して「私はこう思う」という自分なりの考えを述べている。</li> <li>「どうしてそう考えたのですか」といった質問をしている。</li> </ul>	<p>児童の発言やつぶやきをつなげることで、児童の<b>思考が深まる</b>。また、児童の思考が広がることで、「主体的な学びの姿」が出てくる。</p>
<p>l 課題解決のための見通しをもつための<b>発問</b>の工夫（方法を聞く）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どうやって考えたい？</li> <li>どうやってしたい？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「友だちと一緒に考えたい」「教科書から見つけたい」といった学習方法を考えている。</li> <li>課題解決や希望の実現のための方法を、自分の言葉で考えたり、また友だちの考えを聞いて真似てみたりする児童も見られる。</li> </ul>	<p>課題解決や希望の実現のために必要な方法を、児童に考えさせることで、<u>より「主体的な学びの姿」を発揮することができる。</u></p>



③ 空間的環境

<p>m 思考を継続させるための<b>時間設定</b>の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>90分間（2校時）の学習</li> <li>合科学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を忘れ、継続的に活動している。</li> </ul>	<p>児童がやりたいことをやり続けることのできる時間は、児童の<b>思考や意欲の継続</b>にとっても効果的である。しかし、目的を意識し続けることが難しいため、定期的な声かけが必要である。</p>
<p>n 思考を深めるための<b>学習形態</b>の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動</li> <li>班活動 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを友だちに伝えることができている。</li> <li>友だちの考えを聞いて、自分の考えと比較することができている。</li> </ul>	<p>グループにすることで、<b>自分の意見</b>がいきやすくなる。また、目的のある話し合いにすることで、<u>より思考を深めることができる。</u></p>
<p>o 児童同士の思考をつなげるための<b>発表形態</b>の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コの字型</li> <li>対面型 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読劇の発表を見る際、一緒に見ている友だちと良さや課題を見つけている。</li> <li>音読劇の後、互いに感想を言い合ったり、自分たちの発表の感想も述べたりしている。</li> </ul>	<p>コの字型は、発表者だけでなく、それを見ている他の友だちの表情も見ることができ、<u>より一体感が生まれる</u>。そのことから、児童が一体となって<b>次の学びにつなげようとする「主体的な学びの姿」</b>が生まれる。</p>



